

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 3月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770302628		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(上ノ台)		
所在地	〒963-8041 福島県郡山市富田町字向作田25-1 (電話) 024-961-6101		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年3月28日

## 【情報提供票より】(平成20年1月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	12人, 非常勤 3人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 18,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	7名	要介護2	8名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	74歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合南東北病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地域の中に住宅も密集しており、地域密着型サービスを実践できる環境が整っているホームである。開設後2年経過したため、管理者を中心に運営やケアについて熱心に勉強しており、これからの成果が期待される。共用スペースや居室も広々としており、本箱に寄付された本を並べ、自由に読書の好きな方たちが利用できるようになっており、運営方針に掲げる「自らの意思で自由に生活する事」を実践するための配慮が見られる。玄関入り口には座布団を敷いた長すが置かれ、外出帰りに一休みをされる方などに対するさりげない気配りが感じられる。ケアマネジメントも管理者がケアマネジャーであることから、計画目標に対する援助内容も詳細に記載し、職員も計画に沿って支援していることが介護記録の中で認められる。今後は運営推進会議を早急に設置し、地域との連携を深めながら開かれたホームとしての発展を期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で取り組んでおり、管理者が総括的に評価し、改善に向けて実践している。今後は法人の運営者も含めて、改善に向けて取り組まれることを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は未設置であるが、開設2年目であることもあり、運営推進会議の必要性を理解し、特に地域住民の理解を得ながら、3分野からの構成員選定の検討を行なっているところである。運営推進会議は、適正な事業運営と地域に開かれたサービス内容を明らかにすることで、サービスの向上が図られることから今後の運営について期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会や来訪時に利用者の生活状況や健康状態など詳細に伝え理解を得ている。金銭管理は利用者が原則管理しているが、ホームで小額管理をしている方については、金銭出納帳に記載しサインをもらい了承を得ている。今後は定期的にホーム便りを作成するなどして、文書による伝達方法や家族からの情報収集を検討している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの芋煮会に近隣の方たちを招待したり、ボランティアの方たちの訪問を受け入れている。町内会に加入するため代表の方の理解を得るよう努めている。今後は、運営推進会議を積極的に活用し、地域との連携を図るよう検討している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「自由」「家族の絆」であるが、地域住民との連携を重視した地域密着型サービスとしての理念を加えてほしいと思われる。	○	住み慣れた地域での暮らしを支援するための地域密着型サービスであることから、地域との関係性と継続性が不可欠である。事業所として地域住民との交流を独自に表現した基本理念を掲げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の業務におけるサービス理念については職員全体が理解している。地域密着型のサービスについては、理念の中に文言化されていないが、実際の介護サービスに当たっては十分になされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には未加入であるが代表者に対して理解を得るべく努力を重ねている。マジックや音楽などのボランティアグループが定期的に訪れていて、利用者の生活に彩りを添えている。また、散歩の折に近所の人たちが、お茶をご馳走してくれたり、お土産をいただくこともあるとのこと。今後は、ホームの行事への招待だけでなく、地域の行事への参加を行うこととしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員全員で協議し管理者が取りまとめて作成している。外部評価は今回が初めてであるので、評価後の取り組みに期待したい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム開設3年目に入ることから、管轄である行政からも運営推進会議の設置を促されており、来年度当初からの開催を目標に関係者への働きかけを行っている。	○	運営推進会議の意義や役割を一層理解し、早急に設置が必要だと思われる。また、運営推進会議を定期的開催し、自己評価や外部評価の結果を公開するなどしてサービスの質の向上を図るよう積極的に活用されるよう望む。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族などの来訪時には、利用者の近況や行事の様子などを伝え、金銭管理を依頼されている利用者については出納簿の確認を受けている。ホーム便りの発行など定期的な報告も順次行っていく方向である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情窓口のポスターを掲示し、家族等の意見反映に役立てている。また、面会や来訪時に職員が直接対応し要望・意見を聞き運営に反映させるよう努めている。		運営推進会議を活用し、定期的に家族の意見を聞く機会を設け、一層、事業所の運営に反映されることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交替は、法人内のホーム開設に伴うものであり、人事異動は最小限にし、職員間で緊密な連携を図ることにより、利用者のダメージを軽減するよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会を設置して、職員の研修計画を作り、ブロック毎に新任研修カリキュラムを作成している。定期採用でない途中採用の職員に対しては、OJT（職場内研修）によりきめ細かな対応をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会や講習会に積極的に参加し、情報交換を行っている。法人内では管理者会議、ブロック長会議などの月例会があり情報交換の場所になっているが、他の法人事業所との交流はしていない。		他の法人や事業所との交流は、参考になることが多く、サービスの質の向上に繋がると思われるので、計画してほしい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者の経験や知恵をいただきながらコミュニケーションを図り、相互の支え合いを円滑に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、家族の情報や日常の暮らしの中で利用者の思いや意向を察知したり、フェースシートを活用し暮らしの様子の把握に努め、利用者の希望に沿うよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向を反映した介護計画作りに管理者を中心として全員で取り組んでいる。今後は運営理念に掲げる「家族の絆」を重視し、家族等の意見をより一層取り入れた計画にしよう検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した介護計画の期間内で具体的援助内容を細かく記載し、日常の介護記録の中で実践されていることがわかる。また、ユニット別に定期的に会議を行い、利用者の状態変化に対して見直しを行っている。なお、介護記録の中のケアプランの援助内容の表示の項目を活用し、評価に繋げるようにしてはどうか。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が適切な医療を受診できるよう、家族や職員が支援し通院しており、利用者の状態により、協力医療機関の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の運営上、医療連携体制がないこともあり、重度化や終末期の看取り等については、事前確認書の作成や重度化・終末期の対応方針は定めていない。しかし、必要な方に対しては医師を中心に家族とも話し合いの場を持ち、対応についての共通の理解を深めている。	○	重度化や終末期の対応については、事業所が対応可能な最大のケアについて説明をすることが必要である。そのため、重度化に伴う意志確認書や対応指針を作成し、本人や家族等と話し合い、対応方針を共有することが必要と思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し言動にも留意している。さらに、個人情報に関する誓約書を取り、法令順守の徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、家族との温泉入浴等、利用者の多様なニーズにできるだけ対応し支援している。食事もそれぞれのペースで食べており、さりげなく言葉をかけながら時間をかけて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を取り入れ食材を購入し調理している。職員も利用者と会話を交わし一緒に楽しんで食事をしており、配膳や後片付けも利用者の協力を得ながら行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めずに利用者の健康状態や希望を尊重し入浴支援を行っている。また、入浴が苦手な方などには、例えば「髭剃りをするので衣服が濡れるから脱ぎながらしましょう」などさりげない話題から自然に入浴できるような配慮もしているとのこと。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の得意分野も食事の準備、生け花、手芸、洗濯物の片付け等多岐にわたっており、職員は一人ひとりの楽しみや役割を作り出すよう働きかけている。レクリエーションや買い物等の気晴らしをし、楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望をできるだけ取り入れ、散歩、買い物、ドライブ旅行などに出かけリフレッシュするよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみで日中は鍵をかけていない。開放感のある居住環境である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っており、夜間想定訓練も実施している。消防署が避難所要時間を測定し、避難限界時間はクリアしているとのこと。緊急時の連絡網を整備し緊急時対応の周知を図っている。備蓄については、まだ整備されていない。	○	災害時に備えた備蓄等が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための器具等を検討してほしい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事・水分チェック、バイタルチェックを行い職員全員で把握し、利用者の状態に応じて支援している。職員がメニューを検討する際、利用者の嗜好と栄養管理に留意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい空間が保たれており、職員が利用者の見守りを万全に、しかも、さりげなく行えるようにソファやテーブルが配置されている。利用者は居室以外でも一人であることができるよう椅子や座布団が置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルながら使い勝手の良いレイアウトになっている。夫婦での利用者もおり快適に過ごしている。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームもも太郎さん(上ノ台)

記入担当者名 有賀 幸喜

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。